

令和6年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立遠山小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～	学校関係者評価委員
---	-----------

2 本年度の重点化された具体的な目標

<p>①確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 ・授業力の向上をめざし、教職員一人一人が自ら進んで研修する姿勢を大切にする。 ・タブレット端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業を実践する。 ・学校林「駒の森」を活用した環境教育を実践充実する。 <p>②豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫改善を図る。 ・人権尊重の理念の理解を基盤に、いじめを許さない学校づくりに努める。 ・集団活動を通して、「ありがとう」と言える子「ありがとう」と言われる態度を育成する。 ・児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実を図る。 <p>③健やかな体の育成</p> <p>④キャリア教育の推進</p> <p>⑤グローバル化に対応した教育の推進</p> <p>⑥地域と共に歩む学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。 ・成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。 ・学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。 ・地域の教育力を有効に生かして、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。 <p>⑦安全安心な学校づくりの推進</p> <p>⑧特別支援教育の推進</p> <p>⑨教職員の働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。 ・本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。 ・校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。 	6名
--	----

3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価		
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	
学校運営 教育課程	保：児童は学校が楽しいと感じているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	児童や保護者のアンケートからは、児童にとって楽しい学校であるという回答を得た。これは、小規模校ならではの異学年交流の充実や、保護者を含めた子どもたちが楽しみにしている様々な活動の充実、今年度より始めた近隣校との交流学習が大きな要因であると考えられる。次年度は、これまで以上に児童が主役となって、学校行事等に参画していきける体制を、教育活動全般にわたって計画していく。また、地域人材の積極的な活用や保護者と連携し、児童にとってより充実した教育課程となるようにしたい。	A	A	
	保：児童の個性に応じた配慮や支援を行っているか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A				
	児：遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A				
	職：各教科の年間指導計画・週案などが適切に作成されているか。	「概ね十分」は86%、「不十分」が14%であった。	B				
学校関係者による意見等	・集会などで、段取りを工夫して進められたらよいと感じた。 ・「教え合い」は、教えておこらず、教えてもらうことを恥じずという気持ちで行うことを教えてもらいたい。						
学習指導	保：教員はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の83%から「適切である」との支持を得た。	B	学習指導については、概ね良好な回答を得ているが、「きめ細かい学習指導」では、昨年度より1割以上評価を下げた。また、「学習に進んで取り組む子の育成」についても2割以上評価を下げている。例年評価の低い「進んでの発表」の改善と共に、学習全般において、タブレットを活用したきめ細やかな学習支援、興味関心の向上に取り組んできたが、授業における発話による意見交換など、「楽しく活気ある授業」を目指し、今後も改善を進めていく。	A	B	
	保：学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の66%から「適切である」との支持を得た。	C				
	児：授業中、進んで発表しているか。	児童の65%から肯定的な回答を得た。	C				
	児：担任の先生は、間違えたり分からなかつたりした時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A				
	職：一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っているか。	教職員の71%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B				
職：児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	「十分」「概ね十分」と答えた教員が86%。	B					
学校関係者による意見等	・集会などで、段取りを工夫して進められたらよいと感じた。 ・「教え合い」は、教えておこらず、教えてもらうことを恥じずという気持ちで行うことを教えてもらいたい。						
生徒指導	保：児童が困っていたり、悩んでいたりしているときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者、児童からは概ね良好な回答を得ているが、児童への丁寧な教育相談については、保護者の肯定的回答が1割程度下がっている。学校では、アンケートや教育相談等の充実、スクールカウンセラーの個人面談を実施するなど、問題の未然防止、早期解決に努めている。しかし、中には、悩みを抱えていてもアウトプットできないことも考えられるため、相談ポストの周知など、悩んでいることを気軽に相談できる場を増やしていきたい。基本的な生活習慣については、あいさつや言葉づかい、時間のけじめ等、学級担任の指導が浸透しつつある。	A	A	
	児：先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりしてくれたりするか。	児童の87%から肯定的な回答を得た。	A				
	児：先生は、困った時にいっしょけんめい相談ののってくれるか。	児童の97%から肯定的な回答を得た。	A				
	職：基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	教職員の86%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B				
	職：児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A				
学校関係者による意見等							
道徳 人権教育	保：相手の立場を考え、協力する子に育っているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	A	いじめ・不登校支援については、週1回開催している生徒指導委員会で組織的に迅速に対応している。また、特別支援委員会を設け、各学年で個別の支援が必要とする児童について、全体で共通理解を図っていった。異学年交流(たてわり清掃、たてわり遊び、委員会・クラブ活動など)を通じて、温かい人間関係づくりを継続して行う。	A	A	
	児：困っている友達がいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	児童の91%から肯定的な回答を得た。	A				
	職：児童一人一人のよさを認める指導がなされているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A				
学校関係者による意見等							
保健 安全管理	保：運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の72%から「適切である」との支持で、昨年度より1割程度下回った。	B	保護者からは昨年度より評価が1割程度下降したが、児童は1割程度肯定的評価が向上した。運動会やマラソン記録会、なわとび集会などの行事に加え、校長が休み時間に新しい遊びを子どもたちに教えたり、担任と一緒に汗を流しながら遊んだりする日常的な活動が増えたことにより、児童が自発的に運動するようになってきたことが大きな要因であると考えられる。	A	A	
	児：進んで体力づくりに取り組んでいるか。	児童の85%から肯定的な回答を得た。	B				
	職：体育指導、健康教育の充実を努めているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A				
学校関係者による意見等	・楽しく運動することは入り口であり、運動の向上は楽しさの次にあることを学校全体で取り組んでほしい。						
保護者・地域との 関わり	保：学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができるか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	今年度も、PTAによる遠山まつりやもちつき大会を盛大に行い、多くの保護者の協力を得ることができた。また、学校林「駒の森」を教材とした環境学習、保護者参観を兼ねた駒の森音楽集会を実施する等、充実した活動ができた。次年度も地域や家庭との連携を密にとり、児童の地域愛をさらに深めていく活動を行ってほしい。	A	A	
	保：PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取り組みがみられるか。	100%「適切である」との支持を得た。	A				
	職：地域の教育力、外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教職員の100%が「概ね十分」と考えている。	A				
学校関係者による意見等							

A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

4 次期の重点目標と改善のための方策

<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、特に個別の学習支援とともに個々の考えを発話により伝え合う活動に力を入れていく。また、協働的な学びを推進していく必要がある。 ○児童数は少ないものの、人数が少ないが故の生徒指導的な事案もある。少人数の特性を生かした異学年の交流をさらに推進していく。また、道徳教育の推進をさらに進め、よりよい学校生活を送ることができるようにしていく。 ○運動に関しては、遠山小ならではの普段の運動量の少なさを改善する必要がある。単に運動量を増やす取り組みではなく、休み時間等に楽しく体を動かすことができる活動内容の改善により、多くの児童が進んで運動に親しむ姿がみられた。今後も継続した体力向上を行わせていきたい。 ○保護者や地域から温かい支援を受けているものの、複雑な家庭環境によって生活習慣の乱れている児童や特別な支援を要する児童への対応を引き続き継続していく。 ○少人数のため、多人数での交流活動の経験ができない現状がある。近隣学校との交流を積極的に進めていけるよう教育課程を編成していく必要がある。
--